

令和4年度 厚生労働省委託事業  
在宅医療関連講師人材養成事業 研修会

総論⑫

## 小児在宅医療に関わる機関・職種

三重大学医学部附属病院 小児・AYAがんトータルケアセンターセンター長 / 病院教授

岩本 彰太郎

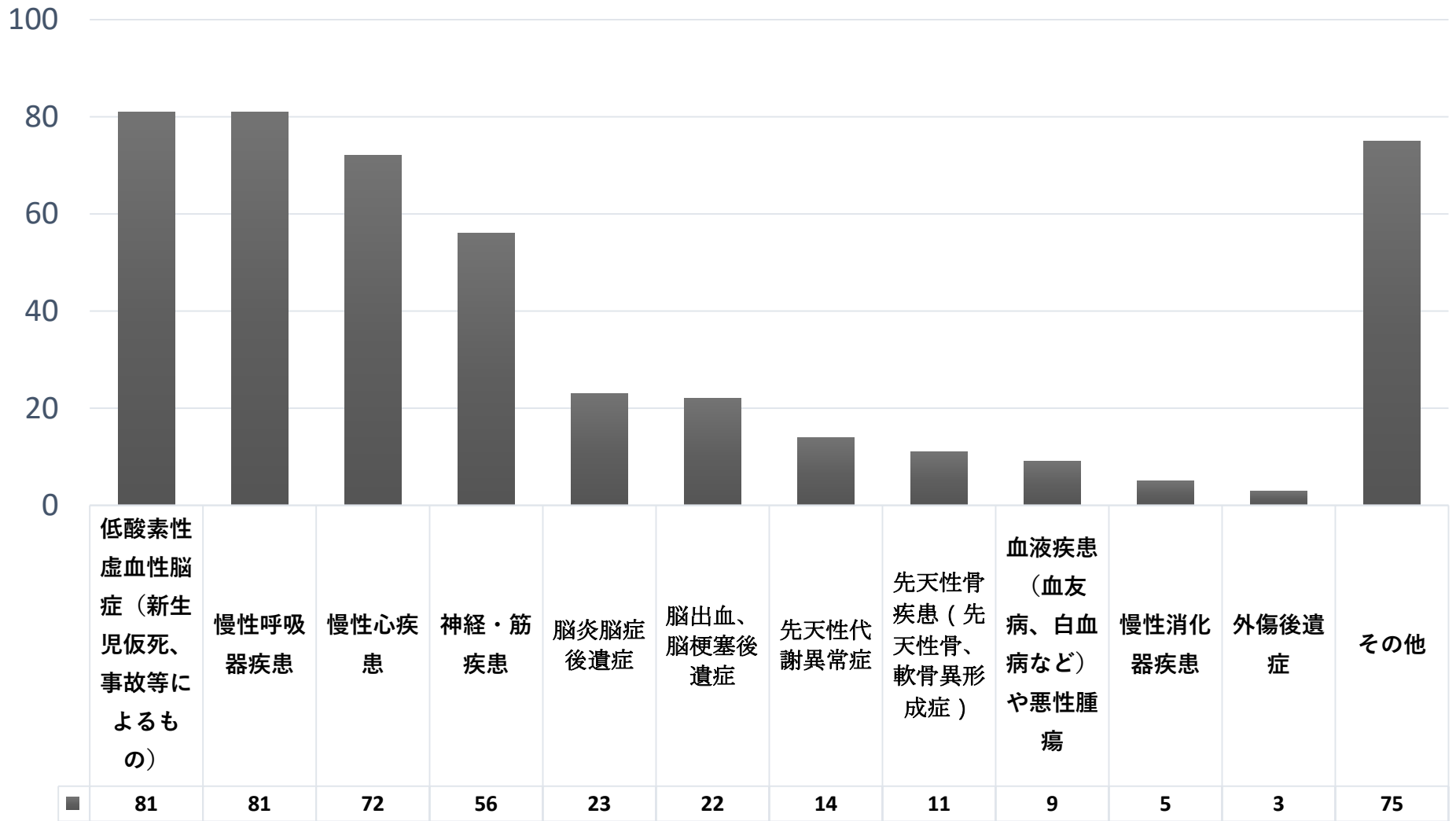
# はじめに

- 地域の医療・福祉などの連携を理解するためには、成人とは違う**在宅児の特徴**を理解した上で**地域連携**を構築する必要がある。
- 介護保険の対象でない中、**医療保険と福祉制度などを組み合わせ**ながら運営していくことや、**成長に伴う環境変化に対応**していかなければならない。
- 小児在宅医療の推進のためのリーダーとなるためには、各々の**専門外の領域にも理解と参加**が求められる。

# 小児在宅医療の特徴を理解し 対応していく必要がある

医療的ケアや介護の負担を軽減し、持続可能な在宅生活を送るためには、**成人の在宅医療との違いと小児の特徴**を理解し、**成長とともにかわる病態**に対応した支援が必要である。

# 医療的ケア児の基礎疾患（埼玉県）



「医療的ケア児に対する実態調査と医療・福祉・保健・教育等の連携に関する研究」  
 （平成28年度厚生労働科学研究費補助金障害者政策総合研究事業）

# 医療ケア児のライフステージ

高度医療依存児の  
ライフステージの  
スタートは病院か  
ら始まることが多  
い

常に医療が必要だが医療と福祉・教育との  
連携、協働の仕組みが未成熟



教育

福祉

医療（常に必要）

病院から  
地域・家庭  
への移行期

地域・家庭  
での生活早期

就  
学  
期

就  
労  
期

社会的  
自立期

終  
末  
期

# 医療機関間の連携と支援会議の重要性

- **病院の主治医が存在**するため、地域完結型の医療連携とはならず、病院と強い結びつきを持ちながら子どもの生活を支援していくことが多い。
- 在宅移行に際しても、事前に十分な準備と役割分担の確認のために、**退院支援会議**の必要性、急性増悪期の**緊急入院対応**など、継続的な連携が重要である。
- **退院移行だけでなく、在宅移行した後も**、治療の変更や状態の変化、子どものニーズを把握していくために、必要に応じて**連携会議を開催**していくことが重要である。

# 医療的ケア児支援ネットワーク

- ①情報共有
- ②相互理解
- ③役割分担
- ④相互支援
- ⑤信頼関係 (顔の見える関係)

②家庭での支援  
(訪問系サービス)  
医療系・福祉系・  
保育系・教育系

③短期入所 (日帰り含む)  
(緊急時・レスパイト)

⑤将来の  
生活の場の確保

①日中活動 (社会参加)  
就学前 療育・保育  
学齢期 教育・福祉  
卒業後 福祉・就労



**相談支援専門員**

⑥相談機能  
(コーディネーター機能)  
福祉サービス等のマネジメント

●担当医の中で、誰かが  
中心となり指示を出す必要  
がある (主治医)



④医療ネットワーク

⇔ 中核病院・大学病院・こども病院

日常の  
担当医

障害医療に  
関する担当医

NICU、入院医療  
の担当医

かかりつけ医  
訪問診療  
開業医  
訪問看護・訪問リハ

日常の健康管理

# 患者と家族を取り巻く多職種チーム作り

在宅療養児と家族にとって、

**多種多様な医療社会資源の活用**が有用で、

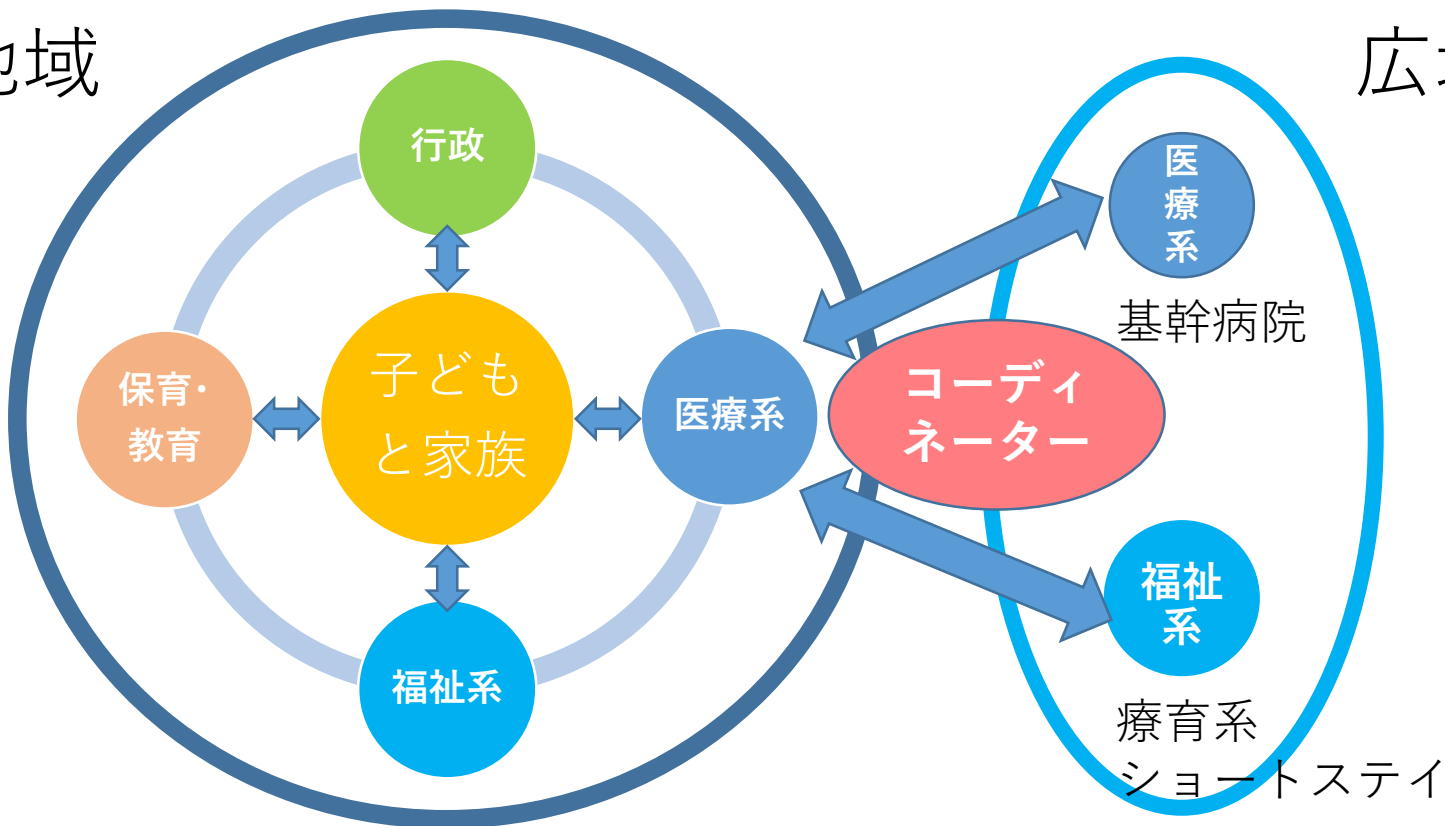
そのためには**多職種のチーム作り**が必須である。



# 連携の形

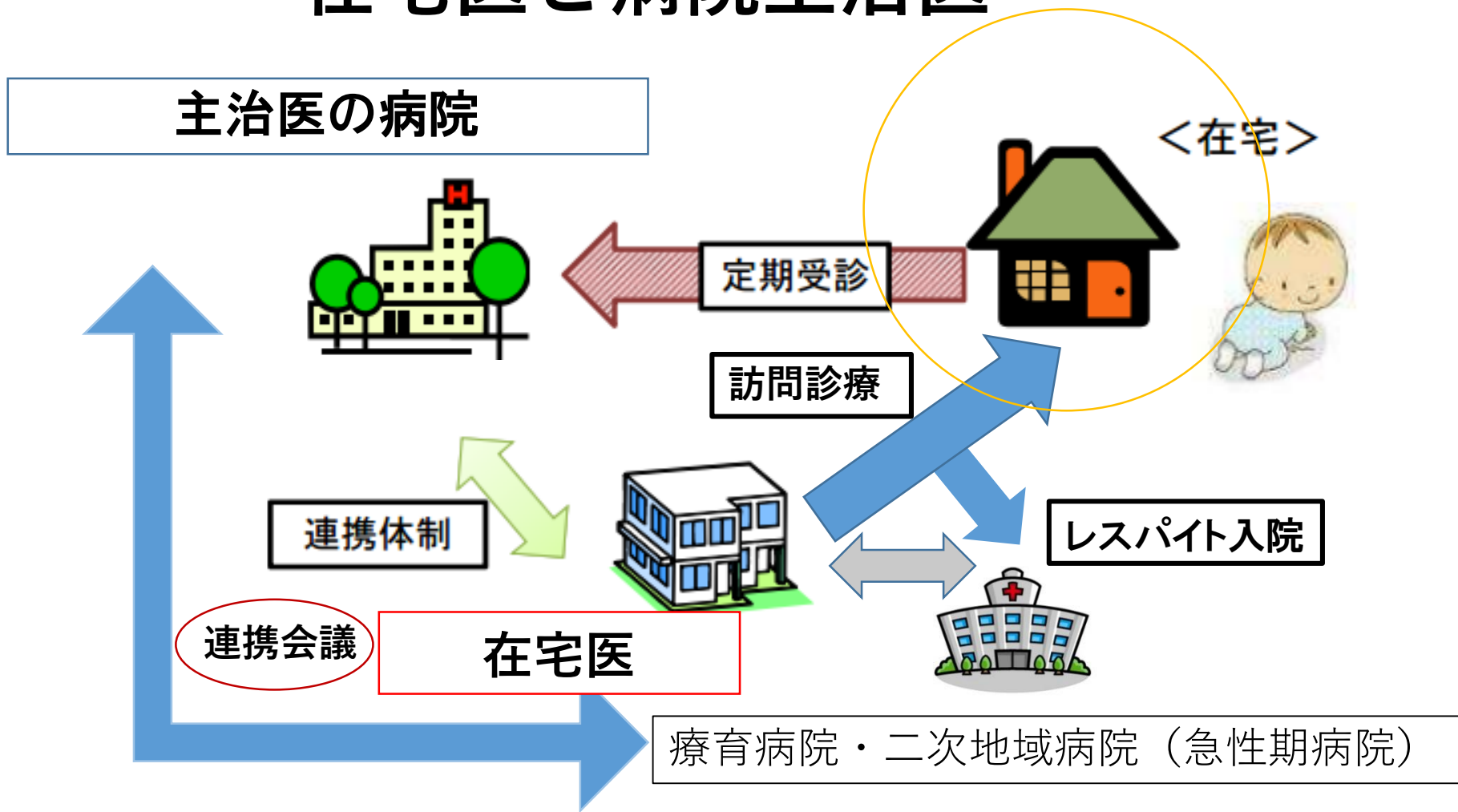
地域

広域



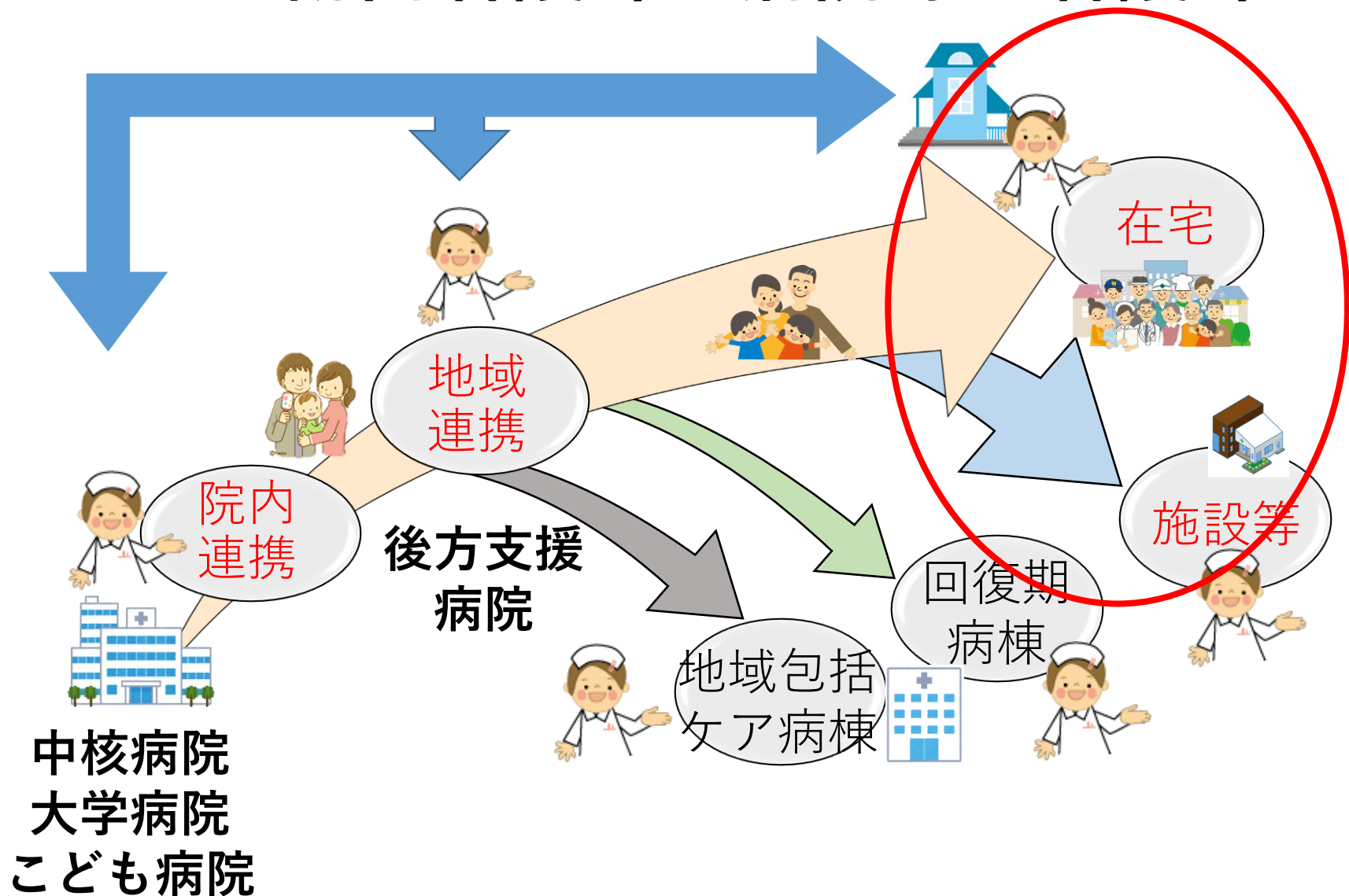
# 医療機関の連携

## 在宅医と病院主治医



# 医療機関の連携

## 訪問看護師と病院等の看護師



# 広域の医療連携

- 周産期センター
- 高次機能病院・小児専門病院・大学病院
  - ⇒ 専門医療、検査入院
  - 急性増悪時の専門治療
- 地域中核病院
  - ⇒ 急性期治療、レスパイト
- 医療型療育病院
  - ⇒ リハビリテーション
  - ショートステイ、入所

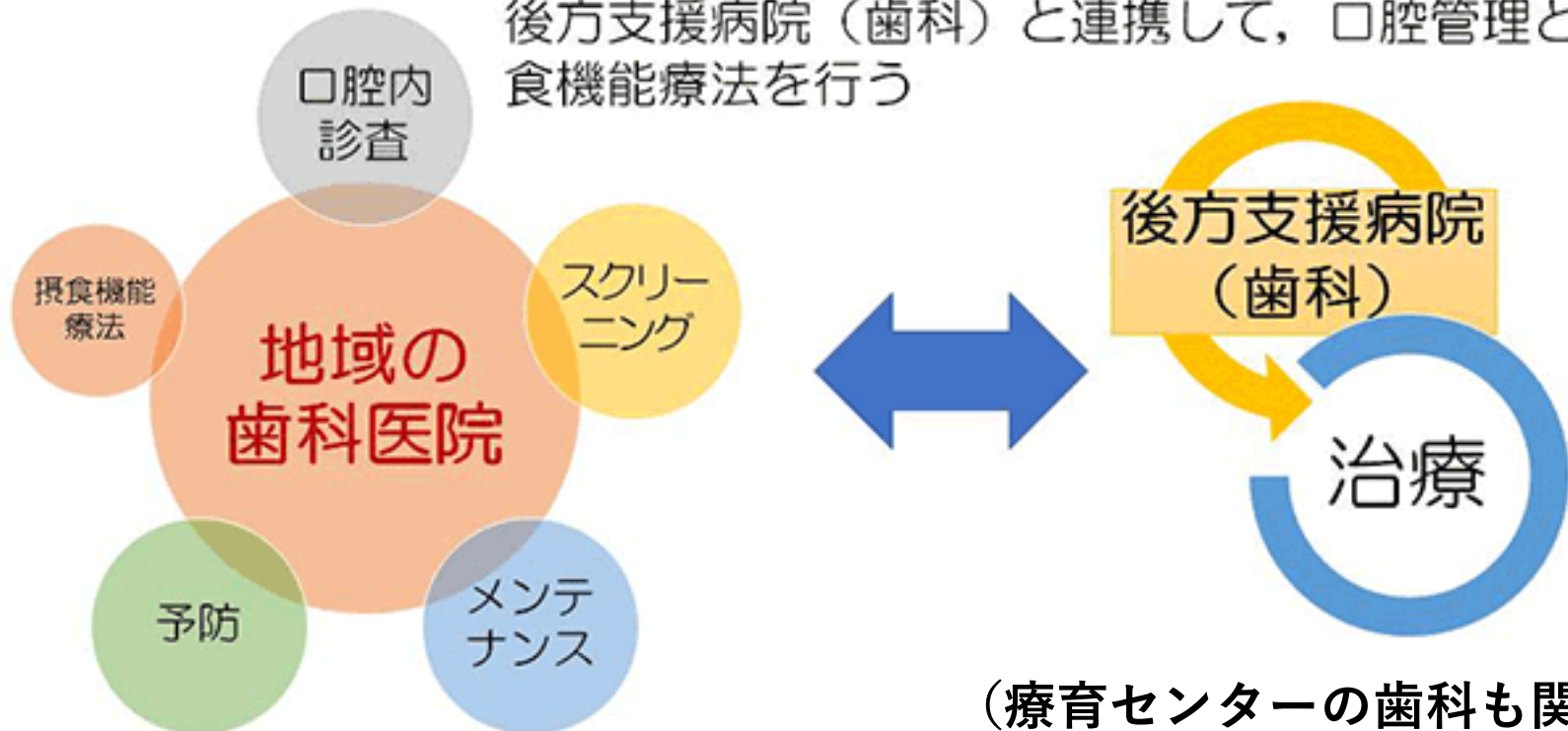
# 地域の医療系の連携

- 訪問診療
- 訪問看護
- 訪問リハビリテーション
- 訪問薬剤指導
- 歯科訪問診療
- 在宅患者訪問栄養食事指導  
(急性期の二次治療入院病院)

# 歯科訪問診療 歯科医による 病診ネットワーク

たましろうしネットが考える口腔内管理の支援システムと連携ネットワーク

患者自宅から近隣にある歯科医院が主治医となり、  
後方支援病院（歯科）と連携して、口腔管理と摂  
食機能療法を行う



(療育センターの歯科も関与)

多摩小児在宅歯科医療連携ネットHPより

# 訪問薬剤指導 地域かかりつけ薬局の役割

## 医療者としての支援

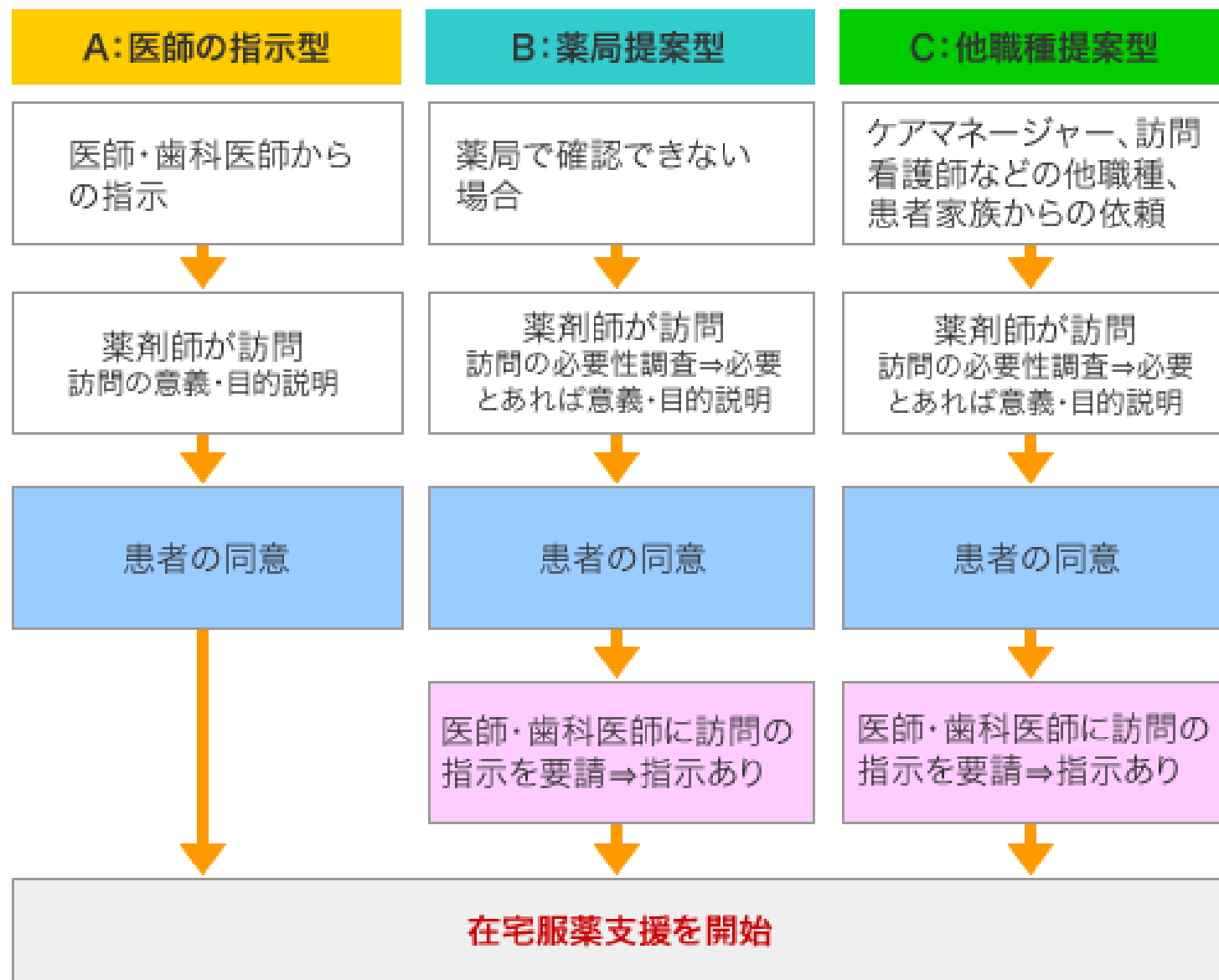
- ・ 在宅患者訪問薬剤管理指導
  - ◆ 処方薬が多く、内服が複雑
  - ◆ 経管投与が多い
  - ◆ 小児の特殊性を理解した服薬指導
  - ◆ 中心静脈栄養、オピオイド
  - ◆ 栄養剤、加湿水
- ・ 在宅物品（衛生材料物品）の提供



## 生活者・保護者視点からの支援

- ・ 子どもの状態の把握
- ・ 内服状況から子どもと家族の状態を把握
- ・ 相談・話し相手
- ・ 同職種・多職種間連携

# 地域薬局が在宅支援を開始するパターン



資料: 日本薬剤師会「在宅服薬支援マニュアル」より一部改編



# 地域の福祉との連携

- 居宅介護（ホームヘルプサービス）  
身体介護、家事、通院介助
- 移動支援、意思疎通支援
- 訪問入浴サービス
- 児童発達支援（居宅訪問型を含む）
- 放課後等デイサービス
- 短期入所（レスパイト）

# 地域の自治体との連携

- 障害福祉課
  - 福祉サービスの支給決定
  - 種々の福祉手当支給
  - 医療器械・装具購入の補助
- 保健センター、保健所
  - 保健師
- 子育て支援関連課（子育て世代包括支援センター）
  - 小児慢性疾病、難病手続き
  - 子ども家庭支援センター
  - ファミリーサポート、家事援助
- 保育課
  - 一時保育
- 教育委員会
- 児童相談所

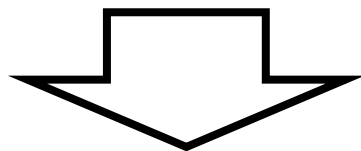
# 地域の保育・教育との連携

- 保育園
- 幼稚園
- 小中学校
  - 特別支援学級
- 特別支援学校（通学、訪問学級）
- 学童保育

# 地域共生社会を目指した地域ネットワーク

## 地域ネットワークづくりで重要な視点

- 医療的ケア児と家族支援を、一つの“**地域共生社会**”の在り方として捉える。
- 在宅医療的ケア児が少ない地域では、“**地域共生社会**”の構築を**広域で検討**することも重要である。



- ✓ **多機関・多職種**の顔の見える場となる。
- ✓ 人材育成・地域社会資源を把握する。  
→ “**支援者支援**” “**地域づくり**”
- ✓ **災害対策**の視点を加え、**行政と共に構築**する。

# 地域ネットワークの一例 (三重県)

## 各ネットの構成

H28年度  
ネット別人口  
(医ケア児\*)

### ■ e-ケアネットそういん

代表：開業小児科医

事務局：障がい者総合相談支援センター

21.8万  
(24人)

### ■ e-ケアネットよっかいち

代表：県立看護大学教授

事務局：相談支援事業所

37.7万  
(47人)

### ■ にじいろネット

代表：医療型入所施設MSW

事務局：大学病院

69.5万  
(83人)

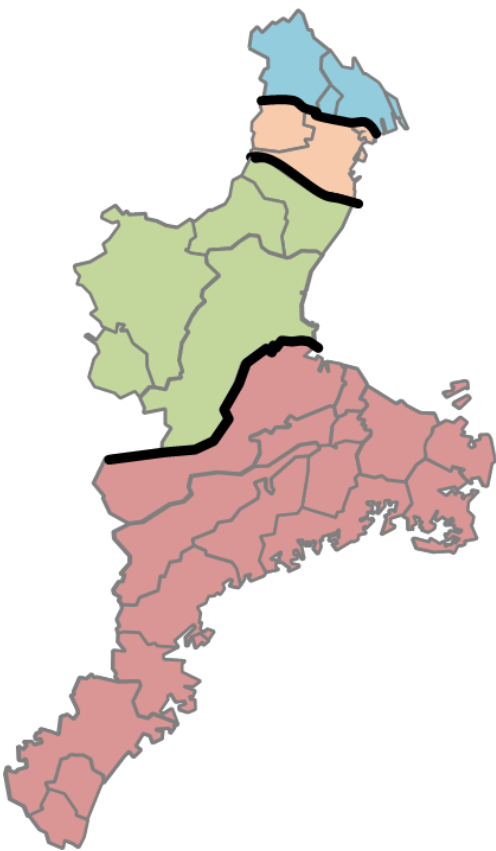
### ■ みえる輪ネット

代表：市長、大学病院小児科医

事務局：医療型入所施設

52.3万  
(57人)

(医ケア児\* 20歳未満)

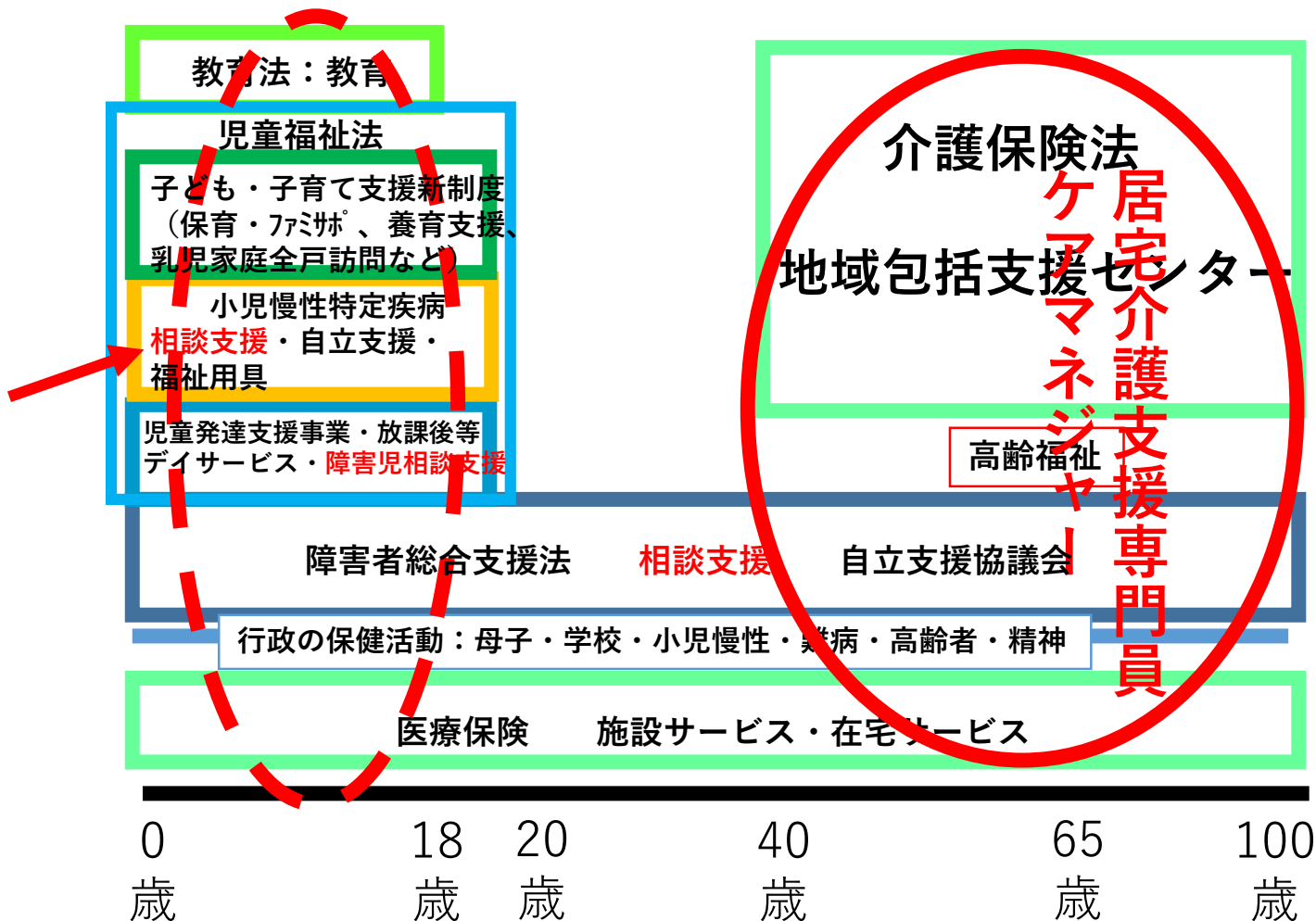


# コーディネーター

- 高齢者の支援は、おおむね介護保険法と総合支援法、医療保険でカバーされ、それをコーディネートするケアマネジャーがいる。
- 小児ではそれを担う職種として相談支援専門員が存在し、障害児福祉計画を作成しているが、医療連携に弱い方が多い。

# 地域における医療・生活支援の現状

コーディネーターの不足



# 小児在宅医療における コーディネーターの役割

- 当事者と家族のニーズと希望を把握する
- ライフステージ・イベントに沿った多職種、多事業所との調整、コーディネート
- 相談支援専門員などによる相談支援計画作成とフォロー

特に医療連携（医療的配慮）の重要性

医療と福祉・教育を包括した支援と計画

\* 医療的ケア児等コーディネーターなど養成研修の充実